



リサーチ用語探偵団 3

再生(recall)と再認(recognition)の区別



再生と再認の違いをどのように説明していますか？

再生と再認の違いを説明する心理学的な見方であるアンダーソンとパウアーの「生成＝再認説(二段階説)」をご紹介します。

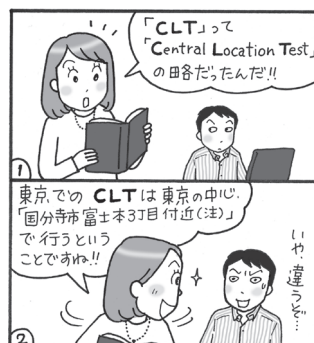
この説では、記憶検索過程を生成段階と再認段階に分け、この両方の段階が成功した時だけ再生されると考えます。生成段階では、問題として与えられた情報に基づき、自発的な検索の手がかりが作られ、有力な候補が記憶表象から検索されます。次に、再認段階では、その候補項目が、問題とされている項目と同じであるかどうか照合されます。再認を調べる調査では、自発的に発見されるべき項目がすでに呈示されていますから、再認は生成段階を必要としないと考えerわけです。

例えば、このように言葉の源流(ここでは心理学的な意味)まで遡って考えておくと、類似した用語に惑わされることなく実務に取り組めるのではないでしょうか。

参考文献

中島義明他・編(1999)『心理学辞典』, 有斐閣

会場テスト= Central Location Test ?



(注) <http://www.city.kokubunji.tokyo.jp/faq/kurashi/1005242/1005308/1006375.html>

「会場テスト」は、なぜ、「Central Location Test」ともいうのでしょうか？

「会場テスト」は直接的には「Hall Test」と訳されますが、「Central Location Test」(以下、CLTと略記)という訳も同義で使われます。^(*)1)

「Hall Test」は調査会社が会場として借りた「Village Hall」や「Church Hall」の「Hall」に由来しています^(*)2)。インターネットで画像検索すると、いずれも仕切りのない広い空間をもつ建物が出てきます。ただ、こうした会場は「ほこりっぽい」「寒々しい」感じがするとのこと、ホテルの会場なども使われるようになったようです。一方、CLTの「Central Location」は物理的な中心ではなく、地域の中心街や利便性の高い場所の意味です。

一般に、会場テストで使う会場は「Central Location」のものを使います。つまり、会場テストとCLTの指すものはほぼ重なってきます。両者は、「建物」に焦点を当てた表現と、「調査場所の立地」に焦点を当てた表現の違いといえます。

参考文献

*1) 日本マーケティング・リサーチ協会・編(2008)『改訂版マーケティング・リサーチ用語辞典』, 同友館

*2) Nigel B. (2013) *Marketing Research: Tools & Techniques*, OXFORD UNIVERSITY PRESS